



第
53
期

第
1
号

日生協労組全国執行委員会機関紙

2008年 7月 28日 発行

《第53期定期大会速報》

7月26日、第53期定期大会を開催！

～「みんなで担う労組活動」を基盤に「生協運動・事業の展望、未来を切り拓いていく取り組み」「一時金のこれまでの水準を守っていく取り組み」「いきいきと働き続けられる職場を創っていく取り組み」を進めよう！～

労働組合は、7月26日（土）コーププラザ4階会議室において、第53期定期大会を開催しました。大会では、冒頭に議長団を選出し議事に入りました。また、19の単組、団体、個人から連帯のメッセージが寄せられました。

まず、全国執行委員会からの基調報告を副委員長、書記長より行いました。基調報告では、はじめに日本生協連、日本生協連労働組合を取り巻く状況について、会員生協・事業連合との関係だけではなく、社会的にも大きく構造が変化してきていることを述べました。第53期については、「みんなで担う労組活動」を基盤に、「生協運動・事業の展望、未来を切り拓いていくこと」「一時金のこれまでの水準を守っていくこと」「いきいきと働き続けられる職場を創っていくこと」の3つの重点課題について、引き続き、労働組合としては取り組みを進めていくこと、「共同化」が進展していく中では、労働者の連帯が重要であり、全国の生協で働く労働者との連帯をめざした取り組みを進めていくことを述べました。

「第52期決算」「第53期予算」については、第52期の収入がほぼ予算通りであり、支出も予算内で執行されたこと、第53期予算については、第53期の取り組みや闘いに必要な財源を確保しつつ引き続き効率よく執行していくこと、日本生協連労働組合の活動基盤である分会の活動を第53期もしっかり行っていくことを呼びかけました。「新共済連設立にともなう職員の身分・労使関係問題」については、2008年秋に臨時大会を開催することを提案しました。「慶弔共済制度」については、一部、規程案の文言の修正提案を行いました。最後に、北海道事務所移転問題の経過について報告しました。

討論では15名の代議員・出席者から発言

基調報告終了後、討論を行い、①生協運動・事業の展望、未来を切り拓いていくことについて、②一時金のこれまでの水準を守る闘いについて、③労働実態改善課題について、④単身赴任者の帰省交通費の保障回数増について、⑤定時部署における育児者等への何らかの支援制度について、⑥北海道事務所移転について、⑦新共済連設立にともなう職員の身分・労使関係問題について、⑧女性部・パート部の活動報告など、3つの重点課題に関わる発言が15名の代議員・出席者からありました。

全議案を圧倒的多数の賛成で採択！

討論終了後、「平和の取り組み報告」を行い、続いて委員長より討論のまとめを行いました。冒頭で、今大会の特徴として、労働実態に関する発言が多くあったことについて述べました。「一時金のこれまでの水準を守る取り組み」については、第53期方針の骨子論議の中でも一時金を守ることや不安な声が出されてきており、職員の頑張り、そして暮らしを守る上でも重要であり、そのための闘いを全力で取り組んでいくこと、「いきいきと働き続けられる職場を創っていくこと」については、特に労働

実態改善は緊急かつ重要な課題であり、分会での労働実態のチェック、改善の取り組みを進めながら、全体としても改善に向けた取り組みを進めていくこと、「生協事業展望課題」については、生協事業をめぐる情勢や「共同化」の進展により生協事業における日本生協連が果たす役割が変化していることや、生協法の改正による共済分離など、大きな転換期に立っている中で、改めて一人一人が、生協運動・事業の展望、未来について考え、取り組んでいくこと等、「みんなで担う労組活動」を基盤に団結して、第53期も取り組みをさらに強化していくことを述べました。

討論のまとめ終了後、採択に移り1～6号議案が出席代議員の全員の賛成で採択されました。選挙管理委員および統制委員も、投票の結果、すべての候補者が圧倒的多数の賛成で信任されました。最後に大会宣言(案)を読み上げ、拍手で確認して議事を終了しました。

議事終了後、退任する役員と新役員の紹介を行い、「団結ガンバロウ」で大会を締めくくりました。

《採決結果》

議案	反対	保留	賛成
第1号：第52期活動報告	0	0	全員
第2号：第52期決算および剰余金処分(案)	0	0	全員
第3号：第53期活動方針(案)	0	0	全員
第4号：「慶弔共済制度」の整備、およびそれに伴う「労働組合における個人情報保護の基本指針」の一部改定について	0	0	全員
第5号：第53期予算(案)および借入金限度額	0	0	全員
第6号：「新共済連設立にともなう職員の身分・労使関係問題」に関して、2008年秋に臨時大会を開催することを提案する	0	0	全員
第7号：選挙管理委員および統制委員選挙	全候補が圧倒的多数で信任		
第8号：大会宣言(案)	拍手で採択		

*「全員」は出席した代議員から、議事運営規程により採決に加われない議長を除いた「出席代議員」全員のことで。

大会宣言

「牛肉コロッケの原料偽装」に始まり、「鳴門産カットわかめ原料偽装」、「餃子重大中毒事故」、「ハーフカシミア誤表示問題」と生協事業を揺るがす重大事件が連続して起こり、生協への信頼が大きく損なわれました。その影響で、会員生協では組合員の脱退が増え、新規の組合員拡大が進まずに供給高が予算割れする状況にもあります。また、改正生協法への対応として共済分離を行う中で、私たちの身分・労使関係についても大きく影響する申し入れがされました。

急速な原油価格の高騰の中で、原料価格も高騰し、景気が悪化する見通しが強くなりました。その中で、流通・小売業界全体は厳しい状況にあり、生協をめぐる情勢はいまだかつてなく厳しいものです。

この危機を乗り越えて行くためには、日本生協連で働く私たち一人一人の小さな力を団結し、生協で働く全ての仲間と連帯していくことが求められます。

今日私たちは「一時金のこれまでの水準を守り、職場と暮らしを守っていくこと」「生協運動・事業の展望、未来を真に切り拓いていくこと」「いきいきと働きつづけられる職場を創っていくこと」を第53期の重点課題とすることを確認しました。

まず、生協運動・事業の展望、未来を真に切り拓いていくために、取り組みを進めていきます。「生協への信頼の再形成」に向けた対応方針などがきちんとしたものになっているか。エリア事業部の設置については凍結するものの、すでにスタートしている事業の共同化は引き続き進められており、この事業が会員生協事業を好転させる内容となっているのか。また、改正生協法を受けた新共済連の設立をどのように生協運動・事業の発展につなげていくのか。これら大きな課題に対し、会がいかにかその責任を果たしていくのか、あらゆる場面で労働組合としてのチェックを行っていく必要があります。

す。さらに、私たち一人一人も自らのこととして考えていく必要があります。

第53期最重点課題は一時金のこれまでの水準を守っていくことです。第52期の取り組みでは、労組要求である年間ではなく、夏季一時金のみ前年実績という回答でした。生協事業をめぐる情勢は、かつてなく厳しい状況です。私たちの暮らしを守るためにも、私たちの頑張りに応えさせるためにも、全労組員が団結し、一時金のこれまでの水準を守る闘いをしていきましょう。秋年末闘争は一時金の切り下げを許さない決意を会に示し、闘いを展開していきましょう。

もうひとつの重点課題であるいきいきと働き続けられる職場を創っていくためには、労働実態改善の取り組みが不可欠です。「生協への信頼の再形成」の取り組み、また「共同化」が進む中、職場はこれまで以上に忙しくなっており、残業時間が過去と比べ高いレベルで推移しており、労働実態が悪化しています。労働実態改善の取り組みを行い、私たち自身の心と体の健康を守ることは、大変重要なことです。この課題については、労組員一人一人が主体的に取り組みを進めていきましょう。

第52期はまさに激動の一年でした。私たちはいまだかつて無い厳しい状況に直面しています。しかし、私たちは、私たちの大切な未来を築くためにその状況を「変えていく」必要があります。だからこそ、労組員一人一人が主体的に学び、考え、行動することが大切です。みんなで担う労組活動を基盤に、一致団結して頑張り、未来ある生協事業を切り拓いていきましょう。

みんなの力で今を乗り越え、新たな道を切り拓いていくことをここに宣言します。

2008年7月26日

日本生協連労働組合第53期定期大会